

孟子曰、^{ハク}「人皆有^リ不^ル忍^ビレ
 人^ニ之心^一。先王有^{リテ}不^ル忍^ビレ
 人^ニ之心^一、^Ⅰ斯^ル有^リ不^ル忍^ビレ人^ニ
 之^Ⅱ政^一矣。^①以^テ不^ル忍^ビレ人^ニ之^Ⅲ
 心、行^{ハバ}不^ル忍^ビレ人^ニ之^Ⅳ政^一、治^{ムルコト}
 天下^一可^シ運^ニ之^Ⅴ掌上^一。

① 全文書き下しせよ。

② ア「不忍人之心」とはどのような心か。二十字程度で説明せよ。

③ Ⅰ「斯」、Ⅱ「政」、Ⅲ「掌上」の読みを、送り仮名を含めて答えよ。

④ ①「以不忍人之心、行不忍人之政」を現代語訳せよ。

⑤ 「可」は「二」ではどのような意味を表すか。次から選べ。

ア 可能 イ 禁止 ウ 願望 エ 反語

⑥ ④のような政治を、漢字二字で答えよ。

所^四以^ノ謂^フ三皆有^{リト}二不^ルレ忍^ビレ人^ニ
 之心^ハ者、今、人^一乍^{レバ}見^{レバ}二（あ
 ）将^ノレ入^ニ於^二井^一、皆有^リ二^Ⅱ怵^レ惕^レ
 惻^レ隱^レ之心^一。非^{ザル}四所^三以^ニⅢ内^二
 交^{ハリヲ}於^{（あ）}之父母^ニ一也。非^{ザル}
 四所^三以^ニ要^{ムル}二^{iv}譽^{レヲ}於^二郷党朋
 友^ニ一也。非^{ザル}下^{ミテ}惡^ノ二其^ヲ声^一而然^{スルニ}
 也。

⑦ Ⅰ「乍」、Ⅱ「怵惕惻隱」、Ⅲ「内」、Ⅳ「譽」、の読みを送り仮名含めて答えよ

⑧ （あ）には「子ども」という意味の単語が入る。漢字二字で答えよ。

⑨ 「将入於井」を書き下し文にし、「将」の句法上の意味を答えよ。

⑩ 「怵惕惻隱之心」とは、どのような気持ちか。説明せよ。

⑪ 「怵惕惻隱之心」が起る理由として不適当なものが、ここでは3つ挙げられてゐる。具体的に説明せよ。

⑫ ウ「非惡其声而然也」とあるが、「其」と「然」の内容を示して現代語訳せよ。

由^{リテ}レ是^ニ觀^{レバ}レ之^ヲ、無^{キハ}二惻隱

之心^ニ、非^{ザル}レ人也。

無^{キハ}二羞惡之心^ニ、非^{ザル}レ人也。

無^{キハ}二辭讓之心^ニ、非^{ザル}レ人也。

無^{キハ}二是非之心^ニ、非^{ザル}レ人也。

惻隱之心^ハ、仁之端也。

羞惡之心^ハ、義之端也。

辭讓之心^ハ、礼之端也。

是非之心^ハ、智之端也。

人之有^ル二是四端^ノ一也、猶^ホ三

其有^{ルガ}二四体^ト一也。」

⑬ 「是非之心」の意味を説明せよ

⑭ 「人之有是四端也、猶其有四体也」を現代語訳せよ。

⑮ 四つの心は、それぞれ何という徳の「端」か。漢字一字ずつで答えよ。

惻隠（ ） 羞惡（ ） 辞讓（ ） 是非（ ）

⑯ 孟子が理想とした「王道」とは、どのような政治か。説明せよ。

⑰ 「霸道」とは、どのような政治か。「王道」との違いが分かるように説明せよ。

⑱ 孟子は、人民を苦しめる君主に対して、どのように考えたか。次から最も適切なものを選ぶ。

ア 君主には、どのような場合でも従うべきである。

イ 君主が悪政を行っても、その子孫が必ず王位を継ぐべきである。

ウ 君主としての資格を失った者は、別の有徳者に取って代わられてもよい。

エ 政治には道徳よりも武力が必要である。

- ① 孟子曰はく、「人皆人に忍びざるの心有り。先王、人に忍びざるの心有りて、斯ち人に忍びざるの政有り。人に忍びざるの心を以て、人に忍びざるの政を行はば、天下を治むること之を掌上に運らすべし。
- ② 他人の苦しみを見過すことのできない哀れみの心。
- ③ I「斯」：すなはち II「政」：まつりごと III「掌上」：しょうじょう
- ④ 他人の苦しみを見過ごせない心で、人々を苦しめない思いやりのある政治を行えば。
- ⑤ ア可能 「運らすべし」は、転がすようにできるという意味
- ⑥ 仁政
- ⑦ I：たちまち II：じゅつてきそくいん III：いるる iv：はまれ
- ⑧ 孺子
- ⑨ 将に井に入らんとす。／再読文字「将」で、今にもくししようとするという意味。ここでは、今にも井戸に落ちそうになること。
- ⑩ はつと驚いて心が動揺し、哀れみ痛ましく思ふ気持ち。
- ⑪ 幼子の父母と親しく付き合おうとすること。／地域の人や友人からほめてもらおうとすること。／助けないことで冷酷だという悪い評判が立つのを嫌うこと。
- ⑫ 子どもを助けなかったという悪評が立つのを嫌って、子供を助けようとするわけではない。
- ⑬ 物事の善悪、正しいことと不正を判断する心のこと。
- ⑭ 人にこの四つの徳の芽生えがあるのは、人に両手両足が備わっているのと同じである。

⑮ 惻隱〓仁 羞惡〓義 辭讓〓礼 是非〓智

⑯ 君主が仁義に基づき、徳と思いやりによって人民を治める政治。

⑰ 武力や権勢によって人民や他国を従わせる政治。王道が仁義や徳を基本とするのに対し、霸道は力を基本とする。

⑱
ウ